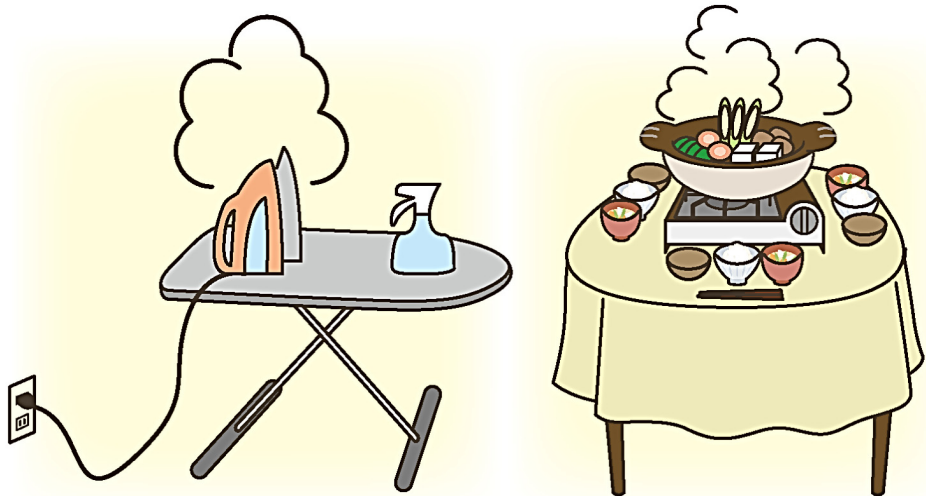




やけど

1 こんな時、どのような事故が起きるか想像してみましょう。(危険予知トレーニング)



事故予防のためのチェックリスト

- アイロンなどからその場を離れる時、電源を切っていますか。
- 食事の際、熱いものは子どもの手の届かないところに置いていますか。

事故例



コードに足が引っかかり
アイロンでやけど



鍋が倒れてやけど

— 「やけど」は乳幼児で多く発生しています。 —

2 主な事故 (実際にあった事例です)

高齢者 ○ラーメンをこぼして、熱湯がかかり、やけど
○電気ストーブに長時間同じ姿勢で暖まり、足をやけど



大人 ○ガスコンロがなかなか着火せず、繰り返していたところ
突然着火し、顔をやけど
○燃焼中のストーブを運搬中に着衣に着火し、やけど



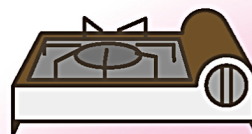
子ども ○ストーブにぶつかり、乗っていたやかんの
熱湯がかかり、腰をやけど



乳幼児 ○テーブルの上に置かれた味噌汁を誤って倒してしまい、
胸をやけど
○石油ファンヒーターの噴出し口に手をかざし、手をやけど
○炊飯器から出ていた蒸気に両手を触れてしまい、手をやけど



3 事故予防対策



ガス・石油器具の取扱い

ガスコンロやストーブは取扱説明書をよく読んで取り扱しましょう。

周囲の方が注意

乳幼児は好奇心で物に触れることがありますので、周囲の方は日頃から十分注意してください。



食事時のテーブルには様々な高温の料理が並ぶことがあります。熱いスープなどは、テーブルの中央に置くなど、子どもの手の届かないところに置くことを心がけましょう。

